JAはだの

発行
秦野市
農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話0463(81)7711㈹
発行責任者 宮永 均

秋の味覚 栗出荷スタート

シャッターチャンス

果樹部会くり部が4日、秋の味覚である栗の出荷をスタートした。今シーズンは有害鳥獣による食害や台風などが収量に影響したものの、粒が大きく、品質は上々だ。

本所選果場では、部員が栗を選別した後、選果機で規格ごとに仕分けて品質を再度チェック。JA全農かながわ中央ベジフルセンターを通じて、県内の量販店に出荷した。

小澤明部長は「今後も互いに協力して共選共販の出荷体制を維持し、消費者に秦野産の栗を届けていきたい」と話した。

集荷した栗の品質を確かめる部員

秋の座談会に多くの出席を

秋の座談会を9月30日（月）～10月10日（木）まで、市内82会場で開催します。

内容は、2019年度上半期活動報告や地域の実態に沿った情報などを話し合います。

組合員の意見・要望を今後のJA運営に反映させるため、1人でも多くの出席をお願いします。

9月30日（月）～10月10日（木）

地域活性化へイベント駆使

支所運営委が力発揮

JAの各支所運営委員会の活動が、地域活性化に一役買っている。委員と地元農家らが連携し、収穫体験やスポーツ大会の開催、地域のふれあいまつりへの出店などさまざまな活動を展開。参加する地域住民の農業理解の促進や地域交流につながっている。

落花生の収穫体験が人気　南支所

南支所運営委員会と西大竹の高橋勇太さんが連携して実施する落花生の収穫体験が、地域住民から人気だ。農業をより身近に感じてもらおうと、特産である落花生の収穫体験を通じて、その魅力を参加者に伝えている。

8月24日の収穫体験には、17組約50人が参加。高橋さんは収穫の仕方を説明した後、株から豆のさやをもぎ取る作業などを手伝いながら参加者と交流。塩ゆでした落花生の試食も用意し、昔から続く農家の食文化を伝えた。

同会の委員も、参加者に収穫のこつを伝えたり、脱粒作業を手伝ったりするなど、体験をサポートした。

同委員会の清水努委員長は「地域の農業の活性化に向け、今後も若い農業後継者を積極的に支援していく」と話した。

参加者と作業に励む高橋さん㊨

正准組合員がソバで交流　上支所

上支所運営委員会と上地区営農推進協議会が企画する「そば作り教室」が、地域交流に一役買っている。正組合員と准組合員らが協力してソバを栽培する他、収穫後には組合員と共に、上小学校に通う児童らがそば打ちを体験。ソバをきっかけに、交流の輪が広がっている。

同教室は、荒廃農地の解消と地域活性化を目的に2017年にスタート。同教室をきっかけに、JAが開くほかのイベントに参加する准組合員も徐々に増加している。

8月23日には、組合員20人が11㌃の畑にソバを播種（はしゅ）。正組合員が准組合員に農作業のこつを教えながら、協力して作業に励んだ。

同委員会の和田稔委員長は「今後も取り組みを続け、地域をもっと盛り上げていきたい」と意気込みを語った。

協力してソバを播種する組合員

今月の特集 4～5面

収穫の秋 観光農業盛んに

秦野市内で、はだの都市農業支援センターや農家らが観光農業イベントを開き、秦野の農業や農産物の魅力を多くの人に伝えている。

かながわ旬菜ナビ

「かながわ旬菜ナビ」10月27日（日）午前9時放送のtvk「かながわ旬菜ナビ」で、リポーターの伊藤綾香さんが、青年部員の取り組みなどを紹介します。ぜひご覧ください。

放送内容の予定　①草山邦彦さんが育てる花苗を紹介②「花いっぱい運動」や「ユースマルシェ」など部の活動を紹介③高橋勇太さんと共に落花生を収穫④小泉貴寛さんと共にエダマメを収穫⑤高梨晃さんらが作った「完熟いちごの和紅茶」を紹介

12人をタイに派遣

組合員教育事業

「アジアとの共生」理念に 農協や学校を訪問

JAはだのは毎年、アジアの国々に組合員を中心とした視察団を派遣している。組合員教育事業の一環で、JAが基本理念に掲げる「アジアとの共生」を推し進めるとともに、国際的視野に立った組合員を養成することが狙い。今年は、団長を務める菩提の相原勝治さんら12人をタイに派遣した。

視察団は、ペチャブリー県のバンラート農協とカオヨイ農協を訪問し、両農協の事業概要や主要作物などを学び、タイでも問題となっている後継者不足などについて意見を交換した。同県のワットノンケイ学校とワットノンプロン学校も訪れ、両校の生徒が描いた絵画と秦野市内の小中学生が描いた絵画や書道を交換した他、現地の伝統的な踊りを子どもたちが披露し、交流を深めた。

ラチャブリー県内のCPD（農業協同組合振興局）では、国内の協同組合をサポートしている同局の役割や機能などについて理解を深めた。

相原団長は「各施設で心温まる歓迎を受け、良い雰囲気で研修できた。団員一同、両国の絆が強固なものになるよう積極的に交流を図った」と話した。

現地の米農家を訪れた視察団

農産加工品生産振興へセミナー

消費者の心理を学ぶ

JAはだのと秦野市は8月23日、市内の農産加工品の生産拡大を目的に、本所で農産加工公開セミナーを開いた。年間8回のカリキュラムで開く農産加工セミナーの一環として、一般にも広く参加者を募って毎年開いているもの。セミナーの受講生の他、じばさんずの出荷者や加工品作りを検討している農家ら41人が参加した。

講師を務める有限会社アイエヌアールコンサルティングの古屋由美子代表取締役が「消費者目線の販売戦略～お客様がピンときて納得する工夫～」と題して講演した。消費者の心理を踏まえた上での商品の陳列方法やPOP（店内広告）の工夫の仕方などを説明。イチゴジャムを例に挙げながら、原価計算の方法なども解説した。

JAでは年間を通じて、毎月開く加工相談会や同店の加工品出荷者を対象にした巡回など、さまざまな形で農家の加工品に関する知識の習得を後押ししている。

効果的な販売方法を解説する古屋氏

市内2店に地粉そば 伝統の味を広く発信

市内のそば屋2店舗に、新たに地粉を使ったそばが登場した。販売を始めたのは、JAはだのが今年契約した堀山下の「手打そば　さか間」と鶴巻南の「手打そば　信玄」。伝統ある秦野産のソバの魅力を多くの来店者に発信している。

かつて全国有数の葉タバコの産地として知られていた秦野市では、昔から輪作体系の中で多くの農家がソバを栽培。現在、生産者は減少したものの、20人以上が栽培に励んでいる。

今年は春ソバの生産量が増加したことから、JA営農課の職員が市内のそば屋を巡回して使用を呼び掛け、販路拡大に取り組んだ。

「手打そば　さか間」は、今月から地粉を使った「十割そば」と「せいろ」を提供。どちらも豊かな風味を楽しめる一品だ。阪間豊社長は「来店者から好評なので、今後も秦野のソバを使っていきたい」と話す。

生産者の一人、戸川の桐山清さんは「一生懸命育てたソバを多くの人に食べてもらえて、とてもうれしく思う。これを励みに、今後も良質なソバを作っていきたい」と笑顔を見せる。

地粉のそばを手にする桐山さん㊨と阪間社長

接近！おじゃまします 366

落花生振興に意気込み

西大竹の高橋（たかはし）　勇太（ゆうた）さん（33）

秦野の特産、落花生の振興に力を入れている西大竹の高橋勇太さん。もともと不動産関係の仕事に励んでいたが、父が体調を崩したことをきっかけに就農を決意し、県立かながわ農業アカデミーに入学。落花生を栽培する市内の農家からも教わりながら、農業のノウハウを身に付けた。

現在は合計1㌶の畑で、落花生を中心にハクサイやタマネギなど年間10品目以上の露地野菜を栽培。中でも、落花生の一部は、JA全農かながわやJAはだのなどで組織する相州落花生協議会から依頼を受け、県内各地で販売される種子用として生産している。

JAと市が連携して開く「農産加工セミナー」に参加し、加工品作りのノウハウを学習。「今後は落花生に付加価値を付けた売り方もしていきたい」と意気込みを語る。

今年で就農から5年目を迎え、活動の幅を徐々に広げている高橋さん。2017年からは、地域住民に農業を身近に感じてもらおうと、南支所運営委員会と連携して落花生の収穫体験を開催。さらに、今年はJAの食農教育イベント「ちゃぐりんスクール」に協力し、市内の小学生に落花生の栽培を指導しながら、食や農の大切さを伝えている。

今年2月には長女が生まれ、家庭もこれまで以上に充実してきた高橋さん。「日々成長していく子どもの姿を見るのが今の楽しみ。これからも家族を大切にしながら農業に励んでいきたい」と笑顔を見せた。

やえのちゃんぴーなマンの「JAってなに？？」

バケツ稲作りをサポート

近くの小学校で、バケツに植えられた稲が実ってたよ。JAがバケツ稲作りをサポートしてるって聞いたんだけど、どんなことをしているの？

JAは、次代を担う子どもたちに稲作を通じて農業を身近に感じてもらうために、30年前から「バケツ稲づくりセット」を提供しているわ。種もみや肥料、栽培マニュアルなどがセットになっていて、バケツと土を用意するだけで、手軽に稲作を体験することができるのよ。

JAはだのでも、子どもたちに稲の成長を学び、収穫の喜びを知ってもらうために、市内の小学校3校、中学校2校に「バケツ稲づくりセット」を届けているわ。

バケツ稲は、子どもたちにお米がどのように作られているか知ってもらうことに役立っているんだね。教えてくれてありがとう、やえのちゃん。

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

秋だ観光農業だ

幅広い世代に人気
自然の中 農作業体験

秋の収穫シーズンを迎え、秦野市内ではだの都市農業支援センターや農家らが観光農業イベントを通して、秦野の農業や農産物の魅力を多くの人に伝えている。豊かな自然の中で気軽に収穫を楽しめることなどから、どのイベントも幅広い世代の参加者でにぎわっている。

サツマイモの収穫をサポートする杉本さん㊨

園児の食農教育に一役
ブルーベリー園を開放

摘み取りをサポートする安味会長

ブルーベリー研究会の会員らは8月27日、安味孝明会長が営む横野のブルーベリー園を地域の保育園児に無料開放した。地域の子どもたちに食や農への関心を高めてもらおうと、はだの都市農業支援センターと連携し、初めて実施した。

訪れたのは、私立西湘秦野保育園と私立山辺保育園の園児合計24人。会員から摘み取り方法などを教わった後、ブルーベリーを味わい、土産として持ち帰った。「甘くておいしい」「お父さんとお母さんにも食べさせてあげたい」など園児の笑顔があふれた。

安味会長は「来年以降も継続し、秦野のブルーベリーのおいしさを子どもたちに伝えていきたい」と意気込みを語った。

学生と連携〝楽校〟茶の魅力を伝える
高梨茶園

菩提の高梨茶園の高梨晃さんは15日、神奈川大学の学生やそのOGらと連携して「はだのお茶の楽校（がっこう）」を開いた。市内外から訪れた参加者に、茶の手もみ体験などのカリキュラムを通じて、茶の魅力をPRした。

同企画は年2回のカリキュラムで、茶摘みや茶の手もみなどのさまざまな体験をしてもらう取り組み。高梨さんと同大学の山岡義卓特任教授が、共通の知人の農家を通じて知り合ったことをきっかけにスタートした。

市内外から参加した家族連れ5組16人は、5月に自ら摘み取って冷凍していた茶葉を使い、茶の手もみを体験。高梨さんから指導を受けながら、「でんぐり揉（も）み」や「こくり」などの作業に励んだ。

さらに、会場となる同茶園には、茶の栽培方法などを記載した学生手作りのポスターを掲示した他、学生らが加工の様子を撮影し、作った動画を上映し、さまざまな形で茶への理解を促した。

参加者や大学生らに茶の手もみを指導する高梨さん㊧

若い世代にPR
青年部がユースマルシェ

15日には青年部が、南地区の畑で観光農業イベント「ユースマルシェ」を開いた。部員が生産する旬の農産物の収穫などを楽しめるもので、若い世代の消費者に食や農の大切さを伝えるとともに、地場産農産物の魅力を知ってもらうことが目的。家族連れ19組58人が参加した。

同イベントは、同部の政策集「ポリシーブック」に掲げる「地産地消の推進」や「地域との交流」などの項目を実践したもの。以前はじばさんずでの農産物の対面販売に取り組んでいたが、2014年から観光農業にも活動の幅を広げた。

現在、観光農業に関心の高い部員8人が連携して取り組んでいる。年間を通じて、トマトやジャガイモなど旬の農産物の収穫体験に加え、茶の手もみ体験なども実施している。

今回も開催に向け、部員は事前に市内の幼稚園や小学校などに約1万部のちらしを配付。若い世代に広く参加を呼び掛けた。

参加者は、高橋勇太さんの畑で、落花生「改良半立」を20株収穫。その後、原聡さんの畑に移動し、サツマイモの「金時」と「シルクスイート」を掘り取った。部員は、参加者に収穫方法や品種の特徴、お勧めの食べ方などを説明しながら、収穫をサポート。部員が生産しているブドウや茶、加工品などが当たる抽選会も設けた。部員の杉本さんは「ユースマルシェに取り組むメンバーも増えているので、今後はさらにイベントを充実させていきたい」と意気込みを語った。

農業満喫CLUBに登録を

今年3月に収穫体験が新たに始まった「不知火」

はだの都市農業支援センターは、旬の農産物の収穫などが体験できる「はだの農業満喫ＣＬＵＢ」の会員を募集している。登録は無料で、会員には3、8月の年2回、同センターが開く観光農業イベントの情報を記載した案内ちらしを送付している。

２００９年にスタートし、今年の8月末時点で657人が登録している。

同センターは、10月12日（土）にキウイフルーツとミカン、19日（土）にはエダマメの収穫体験を実施する他、来年2月には中晩かんの「不知火（しらぬい）」などの収穫体験も予定している。問い合わせは、はだの都市農業支援センターまで。☎81―7800

農家が自ら開園
農業塾卒業生の会も参入

来園者と脱粒作業に汗を流す山崎会長㊧

市内の農家が開く観光農園が、今年も人気だ。良質な落花生やサツマイモを手軽に収穫できることから、県内外から訪れる多くの家族連れや団体客らで連日にぎわっている。

市内では、堀山下や堀西、東田原などの地区で生産者が組合を組織し、観光農園を開園。はだの都市農業支援センターも農家をバックアップしようと、独自のちらしを作成してPRする他、JAの広報紙やホームページなどを通じて広く発信し、利用者の増加につなげている。

今年は新たに「はだの市民農業塾新規就農コース」の卒業生で構成する「はだの市民農業塾就農者連絡協議会」が、落花生の「改良半立」と「おおまさり」を収穫できる観光農園を横野にオープン。同協議会のメンバーは、来園者に収穫方法や品種の特徴などを紹介した他、自宅での調理方法などもアドバイスした。

同協議会の山崎信行会長は「初めての取り組みで不安もあったが、来園者の反応も良く、手応えを感じている。今回学んだことを今後に生かしながら、観光農業にさらに力を入れていきたい」と意欲を燃やす。

丹沢レッド収穫
高い糖度とおいしさ発信

「丹沢レッド」を収穫する参加者

はだの都市農業支援センターは農家と連携し、旬の農産物の収穫体験や農園オーナー制度など、季節ごとにさまざまなイベントを開いている。

21日には、南矢名の果樹園でキウイフルーツの収穫体験を開催。市内外から訪れた6組10人が、赤い果肉が特徴の品種「丹沢レッド」のもぎ取りを体験した。

「丹沢レッド」は、果樹部会キウイフルーツ部が9年ほど前から生産拡大に取り組んでいる品種。高い糖度と食味の良さが特徴だが、認知度の向上が課題となっていた。そこで、同センターが部員の尾澤健一さんと連携して、2年前から収穫体験をスタートさせた。

尾澤さんは、収穫方法や甘く熟れた果実の見分け方などを参加者に説明。その後、試食を振る舞った他、収穫に励む参加者をサポートした。

尾澤さんは「今後もJAなどと連携して、幅広い世代の人に丹沢レッドのおいしさを積極的にPRしていきたい」と意気込みを語った。

直売所の仕組み学ぶ
台湾の若手農家ら視察

出荷方法について説明を受ける参加者ら

JAはだのは5日、じばさんずで台湾の行政院農業委員会水土保持局台南分局の視察を受け入れた。台湾でも農家の後継者不足が問題となる中、新たな農業振興策の一つとして、日本の大型農産物直売所を視察したいとの依頼を受けたもの。同局の職員や若手農家ら34人が、出荷方法を中心に農産物直売所の仕組みを学んだ。

同店を訪れた参加者は、JA職員から出荷方法や価格の設定方法などについて説明を受けた他、同店の朝礼を見学。売り上げ上位の農産物や近隣のスーパーの価格調査の結果を周知していることなど、出荷者へのサポート体制も学んだ。

同局の邱啓芳副局長は「今回学んだ日本の農産物直売所の仕組みを取り入れ、農業を振興していきたい」と感想を話した。

茶農家が取り組みを紹介
各地の研究者視察

茶畑を見学する研究者ら

菩提の「わさびや茶園」は5日、農研機構事務局を持つ関東東海北陸・近畿中国四国農業試験研究推進会議合同茶業部会の視察を受け入れた。茶業に関する研究機関の研究者ら23人が、九州地方を除く全国各地から訪れ、茶の生産から販売まで手掛ける同園の取り組みを学んだ。

園主の山口勇さんが、同園の栽培品種や販売先などを説明。茶畑などを案内した後、同園が生産した茶や、茶を使った菓子を振る舞った。その後、栽培環境や加工設備などについて、研究者らと意見を交換した。

山口さんは「視察の受け入れは良い刺激になった。今後も日本の茶業の振興に協力したい」と話した。

同部会は日本の茶業の振興に向け、今回の視察で得た情報を研究に生かしていく考えだ。

秦野西チーム熱戦を制す
ゲートボール大会

JAはだのは19日、なでしこ運動広場で第40回ゲートボール大会を開いた。組合員の健康増進と地域交流を図ることが目的。11チーム60人が参加した。

熱戦を制し西地区の秦野西チームが見事優勝。準優勝は大根地区の南矢名チーム、3位は大根地区のおおね台チーム。

優勝した秦野西チーム

盤上この一手
囲碁・将棋大会で親睦

JAはだのは8月22日、本所で囲碁将棋大会を開いた。JA健康寿命100歳プロジェクトの一環で、趣味を通じて、ゆとりある生活と組合員相互の親睦を深めてもらうことが目的。囲碁の部に32人、将棋の部に17人が参加し、日頃の練習の成果を発揮した。

参加者は制限時間をじっくり使い、真剣な表情で対局。展開を先読みしながら渾身（こんしん）の一手を打った。熱戦の結果は次の通り。

先を読み一手を熟考した

○囲碁の部A　優勝＝鈴木正夫（堀川）
○囲碁の部B　優勝＝平賀義雄（並木町）
○将棋の部A　優勝＝佐々木広満（渋沢）
○将棋の部B　優勝＝柏木道昭（横野）

長寿者に記念品贈呈
いきいきライフ支援事業

おめでとうございます。末永くお元気でお過ごしください。

88歳（米寿）

▽大根地区＝相原マサ子（鶴巻南）高橋千恵子（南矢名）
▽本町地区＝片野靖（桜町）
▽北地区＝山口武雄（菩提）
▽上地区＝諸星君代（菖蒲）

77歳（喜寿）

▽大根地区＝石原栄子（鶴巻南）佐藤幸雄（鶴巻南）
▽東地区＝相沢高子（西田原）
▽南地区＝遠藤進（尾尻）

※自己申告ですので、該当の方は各支所・支店までご連絡ください。

発見 頑張り屋さん No.436

仕事で地域に恩返し

西田原の―小森谷（こもりや）淳（じゅん）さん（81）

災害時井戸・生活用水・協力の家

㈱シオヅの代表として「あさひ食堂」を営む他、「NPO法人みきフレンド」の三つのデイサービスセンターのオーナーを務める小森谷淳さん。もともと栃木県出身で、高校卒業後に繊維メーカー勤務や飲食店の経営などを経験した後、35歳で秦野市に移り住んだ。

現在は、飲食業と介護事業に携わりながら、二つの事業を通じて地域に貢献している。

―仕事の内容は？

飲食業では、自ら栽培した野菜などを使って弁当を作り、みきフレンドの施設や他の介護施設などに提供しています。介護事業では、デイサービスセンターを管理していて、利用者にとって過ごしやすい環境づくりに努めています。

―地域に対する取り組みは？

地域の方々にデイサービスセンターの一部を無料で貸し出し、ダンスや陶芸、習字などのサークル活動に利用してもらっています。ダウン症の娘を育てる中で、地域の方々にいろいろな面でサポートを受けていることから、感謝の気持ちを込めて会場を提供しています。また、誰かの役に立つことが生きがいの一つになればと、今年7月からは障害のある方に就労の場を提供しています。現在は農作業などの仕事に励んでもらっています。

―今後の目標は？

今後も「お互いさま」の精神を常に持って仕事に励んでいきたいです。また、多くの人に自分の取り組みを知ってもらい、協力してくれる方が増えたらうれしいです。

十五夜飾りきれい
地場農産物で豪華に
じばさんず

十五夜飾りを作る栗原さん

じばさんずに11日、地場産の農産物を使った十五夜飾りが登場した。出荷者の栗原悦子さんが作ったもので、多くの来店者の目を楽しませた。

栗原さんは、庭や畑で育てているススキや小菊、栗を使い、持参した籠を豪華に装飾。秋をイメージし、籠の周りには旬を迎えたサトイモやサツマイモを配置した。

栗原さんは「来店者や出荷者に季節の変化を楽しんでもらえたらうれしい。今後も地場産農産物を使っていろいろなものを作っていきたい」と笑顔を見せた。

彼岸向け小菊収穫

県内外の市場やじばさんずへ

小菊の生産量が県内トップを誇る秦野市で９月中旬、秋の彼岸に向けて収穫がピークを迎えた。花き部会露地部の部員らは連日、収穫や選別、箱詰めなどの作業に汗を流し、丹精して育てた小菊を県内外の市場やじばさんずなどに出荷した。

長雨、台風にも負けず

小菊の収穫に励む加藤さん

部員の一人、平沢の加藤宗雅さんは家族と協力しながら、約70㌃の畑で小菊を栽培。彼岸に合わせて、ピーク時には約２万本を小田原市や静岡県、大阪府の市場などへ出荷した。

今年は、７月の長雨で病害虫が例年より多く発生したり、８～９日にかけて通過した台風により一部の小菊に傷が付いたりするなど、生産者にとって苦労が続いた。それでも、消費者に花持ちの良い良質な小菊を届けようと、病害虫の防除や肥培管理などを徹底した。

加藤さんは「高齢化や後継者不足などにより生産者が減少しているが、これからも部員同士で連携し、品質の高い小菊を消費者に届けていきたい」と意気込む。

じばさんずでフルーツまつり

秦野産の果実PR

部員が秦野産の梨をPR

秦野市園芸協会は、秦野産の果樹の消費拡大に向け、じばさんずで毎年「フルーツまつり」を開いている。果樹部会の部員らが、秦野産の梨とブドウの試食販売、栗の無料配布を実施し、多くの来店者に広くPRした。

8月25日には果樹部会梨部が、対面販売を行い、秦野産の梨をPRした。部員らは「幸水」を生産者ごとに売り場に並べ、来店者に試食を促しながら販売。用意した約60袋（1袋4～7個入）は、午前中に完売した。来店者からは「みずみずしくておいしい」などと人気を集めた。

部員の1人は「今年は長雨などの影響が心配されたが、甘みがある品質の良い梨ができた。秦野のおいしい梨をぜひ多くの人に味わってもらいたい」と笑顔で話した。

JAグリーンは農家を応援します

タマネギ栽培関連資材キャンペーン

JAグリーンはだのは10月10日（木）～17日（木）、タマネギ栽培関連の資材キャンペーンを実施します。農薬や肥料、マルチなどを特別価格で販売しますので、お得なこの機会にぜひご利用ください。

お問い合わせはJAグリーンはだのまで。☎81－7719

GAPの知識習得へ

やさい部会露地部が視察研修会

やさい部会露地部の部員ら13人は10日、JGAP（日本版農業生産工程管理）の認証を受けている開成町の㈱なんかいファームを視察した。GAPについて知識を深め、より安全・安心な野菜作りにつなげることが狙いだ。

清水洋代表取締役社長が、農産物を運ぶ通路と農業の保管場所までの経路を分離して、交差汚染の防止につなげたことなどGAP取得時の改善点を紹介した。

部員らは、農薬や肥料などを管理する倉庫と衛生管理を徹底している作業場を見学。農薬や肥料は使い切って管理しやすいようにしていることなど、日頃の業務で工夫している点を確認し、GAPについて知識を深めた。

小林允部長は「GAPの認証を受けている作業場を視察でき、とても良い経験になった。学んだことを生かし、安全・安心な農産物を消費者に提供していきたい」と話した。

清水社長㊨から説明を受ける部員

適期収穫呼び掛け

水稲の現地検討会

JAはだのは5日、市内3カ所の圃場（ほじょう）で水稲の収穫適期現地検討会を開いた。良質な米の出荷量を増やし、農家の所得向上につなげることが目的。参加した農家24人に収穫のタイミングなどを指導した。

県農業技術センターの職員が、収穫の判断基準となる籾（もみ）の黄化割合などを説明。台風が多いと予想されることから、水田の水を深く張って倒伏や急性萎凋（いちょう）を防いだり、早めに収穫したりするなど、臨機応変に作業を進めることを呼び掛けた。

収穫の適期を学ぶ組合員

鶴巻の澤村一雄さんは「現地で稲の状況を確認しながら、指導してくれるのはありがたい。良質な米の収穫に向け、教わったことを作業に生かしていきたい」と話した。

受賞おめでとう！

日頃の成果を発揮

第30回秦野市落花生立毛共進会を8月16日と9月6日に、市内圃場（ほじょう）と本所農業団地センターで開いた。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞＝清水正夫・郷の香（鶴巻南）大庭和雄・郷の香（西大竹）▽優良賞＝高橋仁志・改良半立（下大槻）諸星一雄・郷の香（菖蒲）▽佳良賞＝山口明・郷の香（堀山下）諸星一雄・改良半立（菖蒲）町田フヂ・改良半立（東田原）大木酉男・郷の香（名古木）

◇

果樹部会くり部は9日、選果場で栗果実品評会を開いた。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞＝小泉一雄（名古木）▽優良賞＝小泉武（羽根）草柳顕一（菩提）

経営

被害をもたらす動物の特定

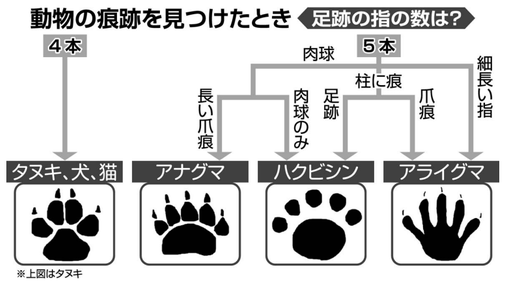
野生動物が田畑を荒らす被害が問題になっています。対策を効果的に行うためには、被害を出している動物を特定することが重要です。

今回は、被害をもたらす中型哺乳類を特定するポイントを紹介します。

▼足跡

農地および周辺に残されている足跡がポイントです。足跡は動物の種類によって特徴があるので、特定する目安になります。まず、足跡の指の数を数えます。指が4本であれば「タヌキ、犬、猫」です。指が5本の場合、指の形を見ます。細長い指であれば「アライグマ」です。人間の手のような跡がある場合は、電気柵を設置するなどの対策をした後の動物の行動を撮影することも可能です。

足跡で出没場所を確認し、自動撮影カメラを設置します。動物を撮影することができれば、動物の種類を特定できます。また、電気柵を設置する残ります。指が丸い肉球であった場合は、被害者の多い夜間の撮影もいい指です。



爪の跡があるか確認します。長い爪の跡があれば「アナグマ」、なければ「ハクビシン」です。

▼自動撮影カメラ

自動撮影カメラは、熱を発生する物体をセンサーが感知すると自動で撮影を行います。

設置することで、動物の種類、時間、行動を映像（静止画、動画）で確認することができます。

被害の多い夜間の撮影も可能です。

（内山）

営農技術ヒント・ポイント

かながわ鳥獣被害対策支援センター 0463-22-9521（内山）

農業技術センター 0463-58-0333

普及指導部
- 果樹花き課　果樹（笹屋）花き（藤平）
- 野菜課（吉岡）
- 作物加工課　作物（木村）

文芸の窓

〈俳句〉（酒井　敏光　選）

近道は今も木の橋女郎花　高島美和子（名古木）
野を巡り終りを充たす女郎花　吉田清美（渋沢）
幾度も母の「かしこ」を読む良夜　菊池としえ（菩提）
女郎花見たく行きつく森のカフェ　志賀明子（千村）
野を生くるものに糧あり秋野菜　芦川松江（八沢）
七草や欠くまじきもの女郎花　石原松枝（渋沢）
女郎花気むずかしさを壺に活け　志田恵美（南が丘）
幼沖や掌より跳びだすひきがえる　柴崎和子（渋沢）
ひかえめの青空なりし厄日かな　高橋順子（大秦町）
月の客抱え持つ手に女郎花　柳川みち子（栄町）
ははの忌やどの窓からもひぐらし　佐藤英美子（南矢名）
脳トレの本届きけり秋の風　森高由子（渋沢）
峠路を横に富士見るおみなえし　選者

〈短歌〉（久保寺　富男　選）

電話受け兄の好める桃買いて
命永らえよと急ぎぬ吾は　石田こずゑ（水神町）

評　電話にて兄の状況を知らされた作者の、緊迫感が伝わってきます。桃を買っていくというのであるから、危篤ではないとは思うが…。

鳥害と酷暑を耐えて実らせたる
大玉スイカを友は持ち来ぬ　細田富士（千村）
台風の先駆けならんか蕭々と
降り継ぐ雨を真夜に聞きおり　八木実（鶴巻北）
梅雨晴れ間みんなで千葉へバス旅行
土産は銘品枇杷ゼリーなり　伊東久（渋沢）
共有の土地を使用の話なく
建物作る役員のあり　峰孝子（千村）
お手お座り伏せ特訓の子犬
曾孫のひと時の至福ヨークシャテリアは　今井かめ（羽根）
旅順港よりの霧に濡れつつ槐咲く
妻生れし町なりしばしもとほる　選者

今月の理事会

9月24日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽2019年度上半期事業報告について
▽特例業務負担金引当金の対応に伴う経理規程および仮決算基準の一部変更について
▽健康情報等の取扱規程の設定について
▽組合員教育対策委員会への諮問について
▽はだのじばさんず店内及びトイレのリニューアルについて

農作業事故なくそう

10月31日まで秋期安全運動

農作業安全標語を記載した看板（本所）

JAはだのは現在、農作業事故撲滅に向け、秋期農作業安全運動を実施しています。運動期間は10月31日（木）まで。期間中は、来所者に注意を呼び掛けるため、本所と各支所に農作業安全標語を記載した看板を設置しています。

農業従事者の高齢化や女性従事者の増加により、農作業中の傷害事故が全国的に増加傾向にあります。市内では昨年、15件の労災申請事故が発生しました。農業機械を使用する前には、整備や仕業点検を必ず実施し、小まめに休息を取るなど、事故防止に努めましょう。

秦野の農家ご飯

秋野菜の南蛮漬け

本町支部　渡辺（わたなべ）　冨美子（ふみこ）

■材料（４人分）■

インゲン300㌘、ナス５本、カボチャ１／４個、Ａ（砂糖大さじ２と１／２、しょうゆ３／４カップ、酢１／２カップ、酒１／４カップ）、赤トウガラシ適量

〈作り方〉

①インゲンは筋を取り、長い物は半分に切る。
②ナスは乱切りにして水に浸し、あくを抜く。
③カボチャは一口大に切る。
④赤トウガラシは種を取り、小口切りにする。
⑤Ａを鍋に入れて熱し、煮立ったら火を止めて冷ます。
⑥①～③の水分を拭き取り、油で揚げる。
⑦⑥の野菜と赤トウガラシをＡに漬ける。ときどき混ぜ合わせて、味がなじんだら完成。

〈ひとことアドバイス〉

赤トウガラシの量は、お好みで調整してください。野菜のビタミンや食物繊維をたっぷり取ることができるので、生活習慣病の予防にぴったりです。

家の光　今月の新刊

農業高校へ行こう！

全国農業高等学校長協会監修

地元農産物を使った加工品の開発や食農教育など、全国各地の農業高校のユニークな取り組みや魅力をたっぷり紹介！在校生や卒業生はもちろん、農業高校進学を考える中学生や保護者の方にも役立つ情報が満載。

定価1600円（税抜き）

泥んこ、危険も生きる力にないないづくしの里山学校

岡本央　著

『裸と泥は子どもたちの心の解放』など、独自の哲学を持って作られた里山学校。遊具もなく先生もいない「ないないづくし」の環境で、たき火や泥遊びを通して生きる力を育む子どもたちの姿を写真中心に紹介。

定価1400円（税抜き）

JA教育ローン
とくとくプラン
学費をサポート！
JAバンクは、進学の夢を応援します。
お使いみち　入学金、授業料、学費、パソコン購入費、アパート等入居費用、海外渡航費など教育費用に関するもの。

JAマイカーローン
とくとくプラン
・自動車、バイク購入費　・カー用品購入資金
・他社自動車ローンの借換　・運転免許取得費用
・車検費用などにご利用いただけます。

インターネットでかんたん事前審査申し込み！ PC・スマートフォンでご利用可能！ JAはだの 検索
詳しくは各支所・支店または融資課まで 0120-954-093

結婚相談日
10月10日（木）
時間　午前９時～正午
場所　本所農業団地センター１階
お問い合わせ
組織教育課☎81－7714

税務相談日　10月10日（木）午前９時30分～
法務相談日　10月18日（金）午後１時30分～
場所　本町支所
予約制ですので、事前にお電話にてご予約をお願いします。受け付け順に相談時間が決まります。
受け付け・ご予約は㈱協同コンサルトはだの ☎81－2329

ローン・年金相談会
ご来場の方に記念品を進呈
●住宅の新築・お借り換えやお車のご購入、お子さまの教育資金など、各種ローンのご相談を無料で承っております。お気軽にご相談ください。
●これから年金を受け取る方の複雑な受給手続きのお手伝いをさせていただきます。
ローン　10月12日㈯　10月19日㈯　本町支所
年金　10月20日㈰　本町支所
※時間は午前9時～午後4時まで。どなたでもご相談いただけますので、お気軽にご来場ください。
それぞれ事前予約をされると便利です。
◆各種ローンを相談される方は融資課に
◆年金受給手続きを相談される方は信用課に
■融資課 ☎81-7713 当日は0120-954-093
■信用課 ☎81-7716 当日は0120-954-092

郷土の味と伝統伝える

手打ちそば　太巻きずし　蒸しまんじゅう

ふるさと料理教室で交流

女性部は、地域の食文化を若い世代に伝えようと、「ふるさと料理教室」を開いている。市内の幼稚園やこども園に通う園児の保護者に、郷土食の作り方を指導。同部の保育ボランティアも協力して保護者が参加しやすい体制を整備し、世代を超えた交流にもつなげている。

同教室は、市内に13園ある全ての市立幼稚園・こども園の園児の保護者を対象に、13年前から開催。昨年は合計243人が参加した。メニューは手打ちそば・太巻きずし・蒸しまんじゅうの3種類を用意。完成した料理を味わいながら、かつて栽培が盛んだった葉タバコの後継作物としてソバが栽培されてきたことなど、地域の農業の歴史も伝えている。

多くの保護者に参加してもらうため、3年前からは同部の有志が保育ボランティアとして協力。参加者が料理をしている間、ボランティアが子どもの世話をすることで、未就学児がいる家庭でも気軽に参加できるように工夫している。

5日には北公民館で、市立北幼稚園の参加者19人に手打ちそばを指導。19日には本町公民館で、市立すえひろこども園の参加者20人に太巻きずしの作り方を教えた。部員は、そばの生地をこねたり伸ばしたりするこつや、断面がバラの花の模様に見える「バラずし」などの作り方を指導した。

太巻きずしの作り方を教える部員㊨

非常時の防災術学ぶ

『家の光』活用しバッグ作り

女性部は17日、本所で『家の光』カルチャースクールを開いた。部員21人が参加。『家の光』9月号の「防災手拭いで作るミニバッグ」の記事を活用して、手提げ袋とふた付きポケットポーチを作った。

参加者は、家の光協会が制作する「防災手拭い」を使って、バッグを手作り。手拭いには、新聞紙スリッパの作り方や、ツナ缶の空き缶をランプとして使う方法など、災害時に役立つさまざまなアイデアが印刷されている。バッグは衛生用品などを入れて非常時の持ち出し用にできる他、縫い糸をほどいて包帯やマスクの代わりとして使うことができる。

その他、同協会の職員が「もしものときの防災術」と題して講話。停電時に冷蔵庫の冷気をなるべく逃さない方法など、『家の光』に掲載された記事をもとに、災害時に役立つさまざまな知識を伝えた。

参加者は「防災アイデア集としても手拭いとしても役立つ、便利なバッグが作れて良かった。学んだことを生かして防災対策を進めたい」と話した。

「防災手拭い」でミニバッグを制作

いきいき女性部活動

「リメイク・チャコ」

代表　和田（わだ）　さかえさん

「あら、その服すてきね」「そう、これは母の形見の着物をリメイクしたのよ」ぜひ、私も作ってみたいなと、洋裁の得意な部員との会話の中で、スタートした私たちのグループ。早いもので結成9年目に入りました。

たんすの中で眠っていた着物や洋服、捨てようと思っていた子供服。少し手を加えるだけで、かわいいポーチやバッグにし、昔のことを思い出しながら活動しています。

メンバーも最初は10人足らずでしたが、今では20人近くになりました。

これからも、文化交流会や農業まつりなどの展示に向けて、いろいろな作品に挑戦していきたいと思います。

5JAがスポーツで交流

ボルケットボールの試合に汗

女性部は5日、秦野市総合体育館で開かれた「平塚・厚木地区5JAボルケットボール親睦会」に参加した。南・西・上の3チームが代表として出場し、他JAの参加者と交流した。

親睦会は、はだの、いせはら、あつぎ、湘南、県央愛川の五つのJAの女性組織が、親睦を深めながら健康増進を図ろうと、毎年開催しているもの。今年は各JAから13チーム104人が出場した。

参加者は、三つのブロックに分かれて試合。メンバー同士で声を掛け合いながら、相手チームのボールを受けたりパスを回したりした。休憩時間などには他JAの参加者とも会話を弾ませ、親睦を深めた。

相手コートにボールを投げる部員

支部だより

北支部

料理教室

北支部は8月30日、本所で料理教室を開いた。部員27人が、トマトケチャップなどの作り方を学んだ。

部員は、伊勢原市でトマトを栽培するJAいせはらの女性部員から、作り方を教わりながら調理。トマト約20キロを使い、トマトケチャップやトマトソースを手作りした。

トマトを煮詰めてケチャップ作り

東支部

災害時の米の炊き方を学習

防災学習会

東支部は20日、東支所で防災学習会を開いた。部員17人が、市の防災アドバイザーから、災害時でもできる米の炊き方などを学んだ。

参加者は、電気や水道、ガスが止まった状況を想定し、ビニール袋を使って米を炊く方法を実践。その他、家庭用トイレの使い方なども学習した。

ヘチマ水をろ過する部員

南支部

ヘチマ化粧水作り

南支部の部員24人は9日、南支所でヘチマ水の化粧水を作った。部員が持ち寄ったヘチマ水から、300本（1本250ミリリットル入り）の化粧水を完成させた。

ヘチマ水は、部員が苗から育てたヘチマの茎を切って採取したもの。部員は、ヘチマ水をろ過して不純物を取り除いた後、エタノールなどを混ぜて化粧水を作り、専用の容器に入れてオリジナルのラベルシールを貼った。

10月の女性部行事予定表

2日	（水）	9：00～第39回女性部運動会（雨天3日）
4日	（金）	9：00～農業まつり運営委員会
〃		13：00～本部役員会
7日	（月）	13：30～第3回女性部ポイントカードプロジェクト会議
8日	（火）	14：00～料理サポーター運営委員会
10日	（木）	9：30～支部役員会（大根）
〃		13：30～支部役員会（東・西）
11日	（金）	9：30～支部役員会（本町・南）
〃		13：30～支部役員会（北・上）
16日	（水）	6：30～女性部企画旅行（17日まで）
19日	（土）	6：30～栃木県JAはが野女性会との交流会
21日	（月）	9：30～東支所「お茶飲み交流会」
23日	（水）	9：30～本町支所「お茶飲み交流会」
〃		9：30～北支部「北地区近隣の資源ごみ処理施設見学」
24日	（木）	9：30～ふるさと料理教室（西幼稚園）
28日	（月）	10：00～家の光クッキングフェスタ
29日	（火）	9：30～ふるさと料理教室（ほりかわ幼稚園）
31日	（木）	9：30～ふるさと料理教室（つるまきこども園）
〃		13：00～神奈川県農協女性組織協議会女性部長・事務局合同会議

告知板

2019年度米穀の検査集荷について

2019年度米穀の検査集荷を左表の通り実施します。持ち帰り検査を希望する方は、◎印の検査日（計4回）にお願いします。指定日以外は実施しません。大根地区以外の地区の方は、持ち帰りのみの検査日もご利用ください。

また、庭先集荷を希望する方は、3営業日前までに各支所へお申し出ください。集荷運賃は1袋（30キロ）当たり60円で、口座から徴収します。

お問い合わせは営農課まで。☎81－7718

検査予定日	検査場所	該当地区
10月1日（火）◎	大根支所	大根
10月3日（木）◎	大根支所	大根
10月8日（火）	本所	大根以外　全支所
10月10日（木）	大根支所	大根
10月15日（火）	大根支所	大根
10月17日（木）◎	本所	全地域持ち帰り検査
10月24日（木）	大根支所	大根
10月29日（火）	大根支所	大根
11月7日（木）	本所	大根以外　全支所

生産緑地地区の取得について

あっせん

生産緑地法第13条に基づき、上記の土地について秦野市より生産緑地のあっせん依頼がありました。

農業に従事している方で、生産緑地として取得を希望される方は、秦野市都市部まちづくり計画課都市計画担当へご連絡を。☎82－9643

場所	地目	面積（平方メートル）
千村四丁目178番1	畑	1008
千村四丁目178番18	畑	81
千村四丁目183番1	畑	1461

加工品相談会を開催

農産加工品をテーマにした相談会です。どなたでもお気軽にご参加ください。

◎日時　10月23日（水）午前10時～午後4時
◎場所　本所農業団地センター2階　調理実習室
◎内容　午前は、県農業技術センターの職員による講義・実演。午後は、個別の相談をお受けします。

お問い合わせは生活福祉課まで。☎72－7661

住宅ローンの一部繰り上げ返済手数料の有料化について

窓口でのJA住宅ローンの一部繰り上げ返済手数料が5500円（税込み）となります。お問い合わせは各支所・支店または融資課まで。☎81－7713

じばさんずパート職員募集

じばさんずのパート職員を募集しています。働きやすい職場ですので、お気軽にお電話ください。

◎業務内容　レジおよび品出しなど
◎時給　1015円※上記の時給は9月末まで（学生1005円）
◎時間　午前8時～午後7時　※時間内でシフト制
◎待遇　社会保険完備・交通費規定支給・車両通勤可など

お問い合わせは、じばさんずまで。☎81－7707

ホームヘルパーとケアマネジャー募集

JAはだのケアセンターでは、ホームヘルパーとケアマネジャーを募集しています。年齢不問。働きやすい職場ですので、お気軽にお電話ください。

◇ホームヘルパー
◎業務内容　訪問介護
◎資格　介護職員の初任者研修修了者（旧ヘルパー2級以上）、要普通免許
◎時給　1210円（土日祝日の加給有り）
※採用3カ月までは時給1000円
◎時間　午前8時～午後6時
※時間・勤務日は応相談
◎待遇　制服貸与、交通費規定支給

◇ケアマネジャー
◎資格　要普通免許、パソコン操作のできる方・実務経験のある方・介護保険認定調査ができる方歓迎
◎時給　1500円
◎時間　午前8時30分～午後5時（休憩1時間）
◎勤務　週3日以上（月に1回土曜出勤有り、日曜・祝日は休み）
◎待遇　交通費規定支給、社会保険加入（週4日以上勤務の方）

お問い合わせは、JAはだのケアセンターまで。☎83－7210

野焼きと農薬使用について

屋外での焼却（野焼き）は、「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」で規制されています。農林業者については、自己の農業・林業の作業に伴って行う焼却で軽微なものに限り例外として認められています。

やむを得ず農地などで野焼きを行う際は、マルチなどのプラスチックを取り除き、煙などによる周囲の生活環境に影響がないように乾燥させてから少量ずつ焼却し、風向き、時間帯などの配慮をお願いします。なお、生活ごみや剪定（せんてい）枝などは、市の収集日に出すなど、決められた方法で処理してください。

住宅地に隣接する土地などでの農薬使用は、農林水産省・消費安全局長、環境省水・大気環境局長通知」で使用者の遵守事項が規定されています。

やむを得ず使用する場合は、「飛散・臭気などにより周囲の生活環境に影響がないように、事前に周辺の方にお知らせするほか、風向き・時間帯などの配慮をお願いします。

お問い合わせは秦野市環境産業部生活環境課まで。☎86－6037

農用地での屋外広告物の設置について

看板などの屋外広告物の設置は、秦野市屋外広告物条例に基づき規制されています。市内農業振興地域の農用地は、屋外広告物を設置できない「禁止地域」に指定されていますのでご注意ください。

なお、その土地で直売をする場合など、看板の規模によって設置できる場合があります。

お問い合わせは秦野市都市部建築指導課建築審査担当まで。☎83－0833

図書室のご案内

本所農業団地センター3階の図書室には農業をはじめ、料理やガーデニング、健康など、生活に役立つ本が5000冊以上並んでいます。家の光協会出版の新刊図書の閲覧もできます。

◎貸出日数・冊数　2週間、1人3冊まで
◎開室日　月～金曜（祝日を除く）
◎開室時間　午前8時30分から午後5時まで
◎貸し出し・返却　図書室にある専用の用紙に必要事項を記入するだけの簡単な手続きです。

お問い合わせは組織教育課まで。☎81－7714

じばさんずNEWS

【10月のイベント】

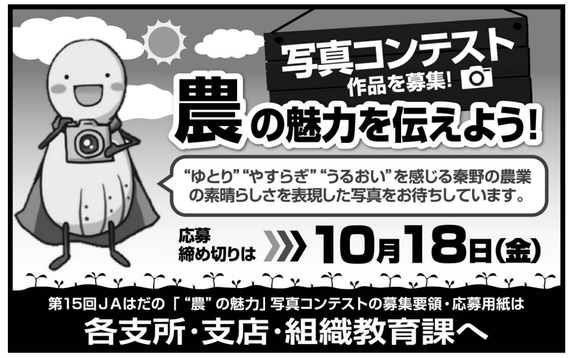
☆「国産豚の加工品」1日（火）、19日（土）
㈱フリーデンが国産豚を使用した加工品を販売します。
☆「豆腐の日」2日（水）
一部商品を店頭価格から割り引きして販売します。
☆「ユースマルシェ」5日（土）
青年部員が大豆を使った加工品などを対面販売します。
☆「果物フェア」6日（日）、20日（日）
秦野産や産地間提携を結ぶJAの旬の果物を多数ご用意します。
☆「十三夜」11日（金）
農家のお母さんが真心込めて作ったまんじゅうや団子を販売します。
☆「新米まつり」12日（土）、13日（日）、14日（月）
秦野産「はるみ」の新米などを販売します。当日は楽しいゲームもご用意します。
☆「さつまいもの日」13日（日）
店外の特設スペースで、秦野産のサツマイモを販売します。試食もご用意しますので、ぜひ食べ比べてみてください。
☆「乾物商品集合」13日（日）
乾物をはじめとした珍味の数々をご用意。セット購入がお得ですよ。
☆「キノコの日」15日（火）
秦野産や他産地産のキノコのうち、一部商品を店頭価格から割り引きして販売します。キノコを使ったレシピもご紹介します。
☆「お茶フェア」26日（土）、27日（日）
あっさりとしてまろやかな味の秋摘新茶を生産者が試飲販売します。
☆「ハロウィーン」31日（木）
ハロウィーンカボチャやお菓子などをご用意します。
☆「めんそーれ！沖縄フェア」1日（火）～31日（木）
産地間提携先ファーマーズマーケットから仕入れた定番の人気商品や新商品など、さまざまな商品をご用意します。
☆「たまごの日」毎週月、金曜日
店頭価格から10％引き。「みくるべたまご」は除く。
☆「試食の日」毎週火曜日
旬の野菜を使ったお手軽料理をご紹介します。
☆「お米の日」毎週水曜日
店頭価格から10％引き。
☆「肉の日」毎週木曜日と29日
店頭価格から5％引き。
◎10月8日（火）は定休日です。
※準備の都合上、イベントが変更になることがあります。ご了承ください。

今月の生産者

菩提（ぼだい）の　伊藤（いとう）　隆弘（たかひろ）さん

生産品目　年間を通じて露地野菜を中心に約20品目

今はネギやオクラなどを出荷しています。国際基準の農業生産工程管理「ASIAGAP」の認証を継続して受け、安全・安心で、「おいしい」と言ってもらえるような野菜の出荷に努めています。



組合員の声を生かし 共に歩むJAへ

組合員の皆さまの意見や要望をJA運営に反映し、組合員の参加による協同組合運動を進めるため、秋の座談会を9月30日（月）から10月10日（木）まで市内82会場で開きます。
2019年度の上半期事業報告や、地域の実態に沿った情報などについて話し合います。
また、日頃JAについて疑問に思っていることや、ご意見・ご要望をぜひお聞かせください。
組合員の皆さまのご出席をお願いいたします。

JAはだの

秋の座談会にご出席ください
9月30日（月）▶10月10日（木）
市内82会場で開催

発行所
秦野市
農業協同組合
（神奈川県）
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711(代)
発行責任者 宮永 均
印刷所 ㈱JA情報サービス

上半期の主な軌跡

6月 June

- はだの都市農業支援センターが地元農家らと連携し、鳥獣被害対策を強化。南地区の小原町では集落環境調査を行い、野生鳥獣の被害状況の把握と対策を検討しました＝**写真**。県立秦野戸川公園周辺では「秦野市鳥獣被害対策実施隊」と連携して、銃器駆除等事前調査を行いました。
- 女性部が取り組む「自給率向上！大豆プロジェクト」が活動開始から10年目を迎え、部員71人が14㌃の畑に大豆の種をまきました。

7月 July

- 地場産農産物の新たな販売先として、イオン秦野店に設置された地場産専用コーナーに農産物を供給。PRイベントでは生産者が来店者に地産地消を呼び掛けました＝**写真**。
- 水稲の苗を食害するスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の駆除作業に、役職員がボランティアとして参加しました。
- 農政対策委員会が、秦野市に2020年度農林業施策・予算要望書を提出。5項目43件の施策と、19項目25件の予算を要請しました。

8月 August

- 夏まつりで女性部がオリジナル浴衣をお披露目。「やえのちゃん音頭」を踊り、同部の活動をPRしました＝**写真**。
- 生産組合長視察研修会を開催し、各地区の生産組合長ら72人が参加。埼玉県鶴ヶ島市で農業交流センターを視察した他、栃木県日光市で二宮尊徳記念館などを訪れました。
- 創立記念式に組合員と役職員ら113人が出席。これまでの歩みを確認するとともに、今後の発展を誓い合いました。

3月 March

- 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープと「事業連携を通じた地域振興・地域貢献に関する包括協定」を締結。生活購買品の宅配事業で協業を開始しました＝**写真**。
- 振興作物に位置付けているエゴマを加工した「はだの生搾りえごま油」をじばさんずで販売。集荷した102％のエゴマから、283本のえごま油を完成させました。
- 第17回じばさんず元気いっぱい生産者大会を開催。出荷者ら114人が出席し、地域農業のさらなる活性化に向けて一丸となって取り組むことを誓い合いました。

4月 April

- TAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）が秦野産小麦の販路拡大に取り組み、横浜市西区にあるホテル「横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ」内のペストリーショップ「ドーレ」と横浜市中区に本店がある大手ベーカリー「POMPADOUR（ポンパドウル）」で、秦野産小麦を使用したパンが販売されました＝**写真**。
- 春の座談会を市内83会場で開き、組合員1,233人が出席。682件の意見・要望が寄せられました。

5月 May

- 次世代を担う子どもたちを対象に「ちゃぐりんスクール」を開校。落花生の種まき・収穫や、酪農体験などのカリキュラムを通して、食と農の大切さを伝えました＝**写真**。
- 2019年度の協同組合講座がスタート。協同組合運動の地域リーダーとなるため、組合員基礎講座、組合員講座、専修講座合わせて111人が受講しています。
- 第56回通常総会を秦野市文化会館大ホールで開催し、9議案を可決。組合員2,282人が出席しました。

正組合員・准組合員 一体となって農業振興を

～正組合員の営農を支えるパートナー・准組合員～

組合員のための自己改革を継続

「農協改革集中推進期間」が終了

2019年5月末に、政府の規制改革推進会議が定めた5年間の「農協改革集中推進期間」が終了しました。

同会議は6月に安倍首相に提出した「規制改革推進に関する第5次答申」で、自己改革の一定の進捗（しんちょく）を評価しつつ、「農業者所得の向上、一層の資材価格の引き下げ、信用事業の健全な持続性などについて課題が残されている」として「農協改革集中推進期間の終了後も、自己改革の実施状況を把握した上で、引き続き自己改革の取組を促す」とした。この答申を受け、政府が閣議決定した「規制改革実施計画」でも同様に記載されました。

准組合員の事業利用規制を検討

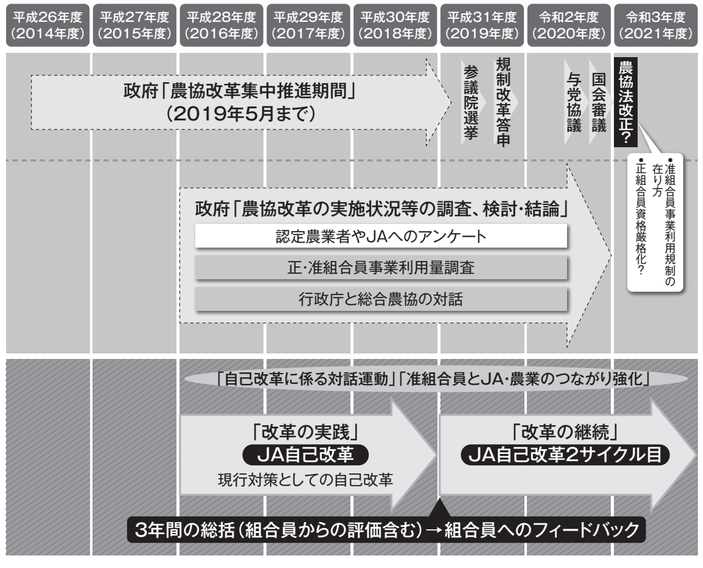
2016年4月に施行した改正農協法附則では、施行後5年（2021年）をめどに「改革の実施状況を勘案して制度の見直しを検討し、必要に応じて措置を講ずる」「准組合員の利用事業に関する規制の在り方に係る調査を行い、検討を加えて結論を得る」と規定されています。

江藤拓農林水産大臣は「准組合員の事業利用に関する規制の在り方について、『組合員判断に基づくものとする』とした与党決議を踏まえていく」と発言していて、自民党などの与党も「准組合員の事業利用規制の在り方については、農協組合員の判断に基づくものとする」と明記しています。今後は、農水省が継続している各種調査結果に基づき、検討が進められることになります。

〝自己改革の2サイクル目〟への取り組み

2018年11月に開催した第71回神奈川県農協大会決議では、2019年度からの3か年を“自己改革の2サイクル目”と捉え、営農経済改革や対話活動などを「当たり前の取り組み」として継続しながら、改革の意識を組合員・役職員に深く浸透させていく期間としています。JAはだのでは、農業と地域に欠かせない存在であり続けることを目指し、今後も引き続き組合員のための自己改革を着実に実践していきます。

情勢 農協改革・JA自己改革 5年後検討条項留意、自己改革2サイクル目



地域農業振興の応援団 准組合員の役割

1. 農業協同組合の組合員として、農業の果たす役割や食の安全・安心について関心を持ちましょう。
2. 協同組合講座などを受講し、協同組合について積極的に学びましょう。
3. 地域農業の振興のため「JAはだのみんなで地産地消運動」を実践しましょう。
4. 支所・支店を拠点とした地域に根差した協同活動やJAの行事に参加しましょう。
5. 「JAはだの農業応援定期貯金」など農業を支援するJAの事業を利用しましょう。

豊かな社会を協同の力で！

2019年度上半期の状況

JAはだののすがた

●2019年8月31日現在　●数字は単位未満切り捨て
●( )内は前年同期実績　この特集号での数値は速報値です。

1 みんなの仲間

組合員数 **14,484**人 (14,508人)
- 内訳 正組合員数 **2,868**人 (2,975人)
- 内訳 准組合員数 **11,616**人 (11,533人)

組合員戸数 **12,039**戸 (11,931戸)
- 内訳 正組合員戸数 **2,286**戸 (2,322戸)
- 内訳 准組合員戸数 **9,753**戸 (9,609戸)

2 資本の状況

資本の合計
160億**8**千万円(152億8千万円)
- 内訳 出資金 **17**億**3**千万円(17億7千万円)
- 内訳 準備金・積立金他 **143**億円(135億円)

単体自己資本比率 (2019年2月28日現在)
16.53% (国の基準4%以上、JAバンク自主基準8%以上)

※資本は、貸借対照表の「純資産」のことです。

3 組織活動 教育広報の充実

- 映画「二宮金次郎」の上映会を開催して協同組合活動への理解を促進
  来場者人数 **1,216**人
- 次世代を担う小学生に食と農の大切さを伝える「夏休み子ども村」を実施
  参加者人数 **157**人
- 改正生産緑地法に関する研修会を開催
  参加者人数 **139**人
- インスタグラムで情報を発信
  配信回数 **20**回

4 営農事業の取り組み

- **営農指導の充実**
  - 営農指導員の計画的な育成と資質維持･向上
  - TAC活動を通じた有用な情報提供
  - 地域の特性に合った振興作物の普及と生産指導
  - 地元大型量販店に設置された地場産コーナーに農産物を供給
  - 土壌診断の受診を呼び掛け、コスト管理に基づいた効率的な施肥を指導
    土壌診断数 **140**件
- **はだの都市農業支援センターの取り組み**
  - 鳥獣被害の防止に向け「秦野市鳥獣被害対策実施隊」と連携
  - 「はだの農業満喫CLUB」への加入促進
    会員登録数 **657**人 (631人)

5 安全・安心な農産物の供給

- 「はだのじばさんず」を中心とした新鮮で安全･安心な農産物の供給
- 専任職員を配置して買取販売や販路拡大への取り組みを強化

「はだのじばさんず」の利用状況
- 利用者総数 **26**万人 (26万人)
- 1日当たりの利用者数 **1,454**人 (1,470人)
- 取扱高 **4**億**7**千万円 (4億7千万円)
- 1日当たりの取扱金額 **262**万円 (268万円)

全体の取扱高
9億**9**千万円(11億1千万円)

6 健康と福祉の取り組み

- 「JA健康寿命100歳プロジェクト」の展開
- 高齢者のスポーツ大会を開催
- 子育て支援「ままメートクラブ」を開催
- 農産加工セミナーおよび加工相談会を毎月開催

▶人間ドック
受診者人数 **329**人 (325人)

▶乳がん･子宮がん検診
受診者人数 **42**人 (47人)

▶長寿記念品の贈呈
申請者人数 **64**人 (82人)

7 生産資材や生活物資の安定供給

- 生産資材を安価で販売する店舗キャンペーンの実施(資材一括購入による一部品目価格を最大3割減)
- 全組合員に地場産品などの注文書を配布
- 事業連携により、パル生協が生活物資の個人宅配送を開始
  登録件数 **250**件

全体の供給高
16億**4**千万円 (13億6千万円)
- 内訳 生産資材 **6**億**2**千万円 (6億2千万円)
- 内訳 生活物資 **10**億**2**千万円 (7億4千万円)

8 くらしのための共同施設

- 家族葬など多様化する葬儀形態に対応したJAセレモニーホールはだのの運営
- 利用者に満足いただける旅行の企画

全体の取扱高 **2**億**9**千万円(3億5千万円)

主な施設の取扱高
旅行センター **4**千万円(5千万円)
JAセレモニーホールはだの
117件 **2**億**4**千万円(137件 2億9千万円)

9 便利で安心JAバンク

- 農業応援定期貯金の取り扱い
  674件 **8**億**1**千万円 (265件 2億7千万円)
- 年金相談会の開催

貯金残高
2,244億円(2,228億円)

10 農業・生活・事業資金などの融資

- 農業振興や生活・事業などの資金対応
- 貸出担当者とTACによる農業者訪問
- 休日ローン相談会の開催

貸出残高
433億**7**千万円 (417億2千万円)

11 万一に備えての共済

長期共済新契約高 **271**億円(258億円)

長期共済保有高
4,351億**7**千万円 (4,431億8千万円)

上半期に支払った事故共済金額
765件 **6**億**2**千万円 (799件 6億5千万円)
- 内訳 生命 **402**件 **4**億**2**千万円 (372件 4億8千万円)
- 内訳 建物 **70**件 **6**千万円 (78件 8千万円)
- 内訳 自動車 **293**件 **1**億**3**千万円 (349件 9千万円)

12 活動のみのり

上半期剰余金
1億**7**千万円 (1億8千万円)

13 ㈱協同コンサルトはだの

- マイホーム･アパートなどの建設の支援
- 入居者に喜ばれる共同住宅のあっせん

入居率 **97.2**% (95.9%)

※入居率はJA系統の管理会社2社の数値です。